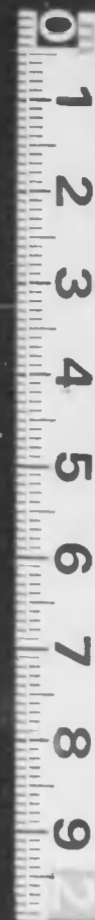


寫眞週報

情報局編輯

十月七日 第二十四一號

昭和二十一年十月七日 東京新聞社發行 第三四一號



卒業生諸君へ餞の言葉

君たちが學窓に在つた時
 同じ年頃の多くの青年は
 泥濘を、峻嶮を、熱砂を進軍していつた
 しかしいくたりかは還らない

若いものの自負が、そして若いものの倫理が
 何處に立たうと安易な途をいくことを
 許さない筈だ
 さあ、進んで苦難を背負はふぢやないか

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



軍神加藤少将 陸軍 葬

京東 日二十二月九

空の軍神加藤建夫少将の陸軍葬は、月ごころはれその命日にあたる九月二十二日、東京築地本願寺において厳かに執り行はれた
 勤哭くかのやうに降る秋雨、鐘々と立ちのぼる香煙。この日このひと時のこの翼の耳星を悼んで、一億國民の心もまたひとしく悲しみにかき曇つた
 ……明星は波心に傾ちたり、報を傳へて全軍の將士は寂として聲なく、齊しく君の爲に深沈なる哀悼を捧げて勇氣愈々百倍せり……東條兼攝陸軍大臣の弔辭が切々と胸をうつた

軍神の靈前に燃香する母幸キミ刀白と三勇雄三君

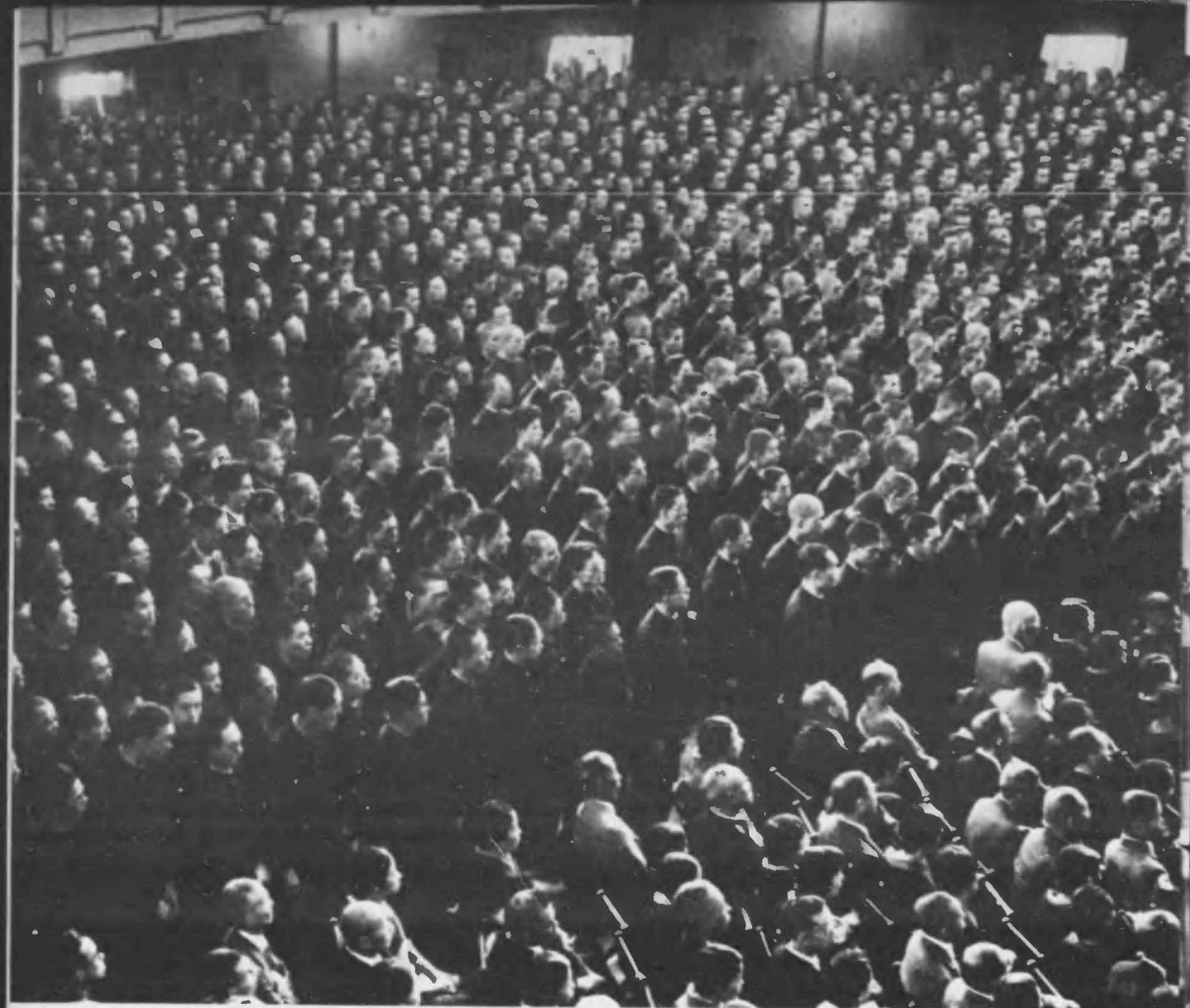


⇒ 一億國民に耳聾れた名詞、陣頭に立つ熱と力なく、記者の心をつかんでゆく

大臣を陣頭に

東條総理東大卒業生を激励

□ 総理の言葉を聞き流さずまじと耳を冷まし、東大つ決意を新たにする新卒生たち



また黄に染まぬ大銀杏にしっかりと包まれた東京帝國大學の大講堂から、東條内閣総理大臣の豪たる激励の言葉が流れ出る。九月二十五日、同校の繰上げ卒業式に出席した総理が、二百二十八名の卒業生を通じて、全國の新卒生に送る感激溢れる祝辭だ

「こゝにおいてか、私は諸君が、古歌に歌はれる『みたまわいけるしるしあり天地の榮ゆるときにあへらく思へば』の感激と熱とを日に／＼新たにし、『寒而後已』氣魄を以て、進んであらゆる困難を突破せられんことを切望し且つ強くこれを期待して已まないものであります。」「追力のある一語々々が、今日學業を果立つ晴れの學生の胸に、辛勞幾年、今日の日を待った父兄の胸に、じつと浸みこむ。『さうだ、陛下に馳せ参する日が来たのだ』『今日から俺も一人前み國のお役に立てるのだ。』東條総理が自ら陣頭に指揮するところ、一億あげて米英軍艦に突進するの縮圖を見せて如何にも頼もしい卒業式風景であつた



⇒ 學生時代よさらば、今こそ我等新進氣鋭が一杯の御水公をする日がきたぞ、卒業證書を手に足取りも軽く校門を辭すこの卒業證書には子の知らぬ數々の苦勞が秘められてゐる。その苦勞も今日の晴れ姿に忘れて……



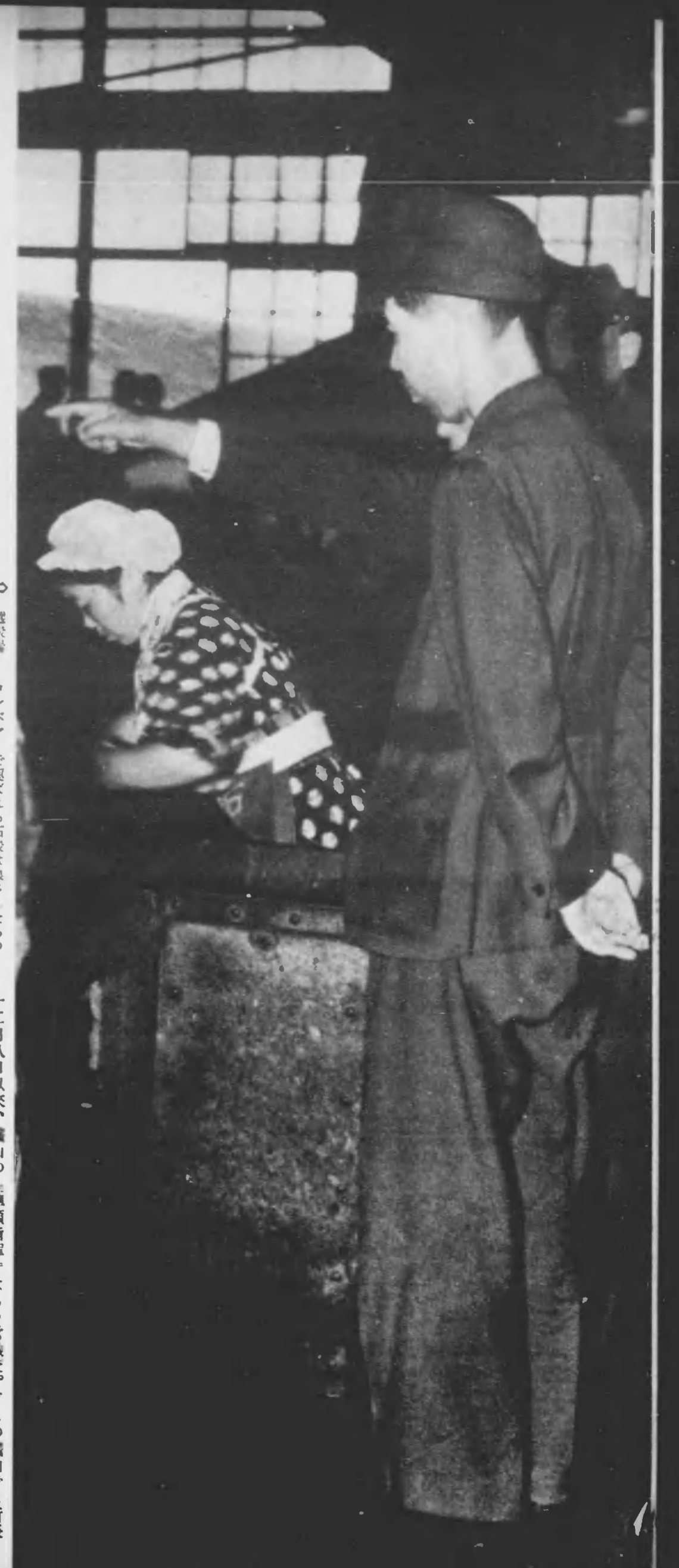


大臣を陣頭に 岸商相地下千尺に入る

福島県 古河好間炭坑

選炭場—コンベヤーで運ばれる石炭は娘さんたちの鮮かな手さばきで次々と處理されてゆく

これだけの増産を確保されるには並大抵の御苦勞ではないでせう。岸さんしんみりと心からお禮をいつた



ゴロ／＼にびい音を坑内に響かせて炭車が幾架も降り、そのどれにもつやのいい石炭がすしりと積まわつてゐる



十二月八日以来、鑛山の「陣頭指揮」はもう常態だ。どこの鑛山でも所長も坑夫も全山、がつちりと必死の奮闘を揮つて増産と取組んでゐる。「この他のハンマーで米英のハンマーと決戦だ」その意氣と覚悟はもう日本の鑛山の戦士が調度深くたいんだ合言葉だ。これがほんとの日本の威力といふものだらう

「僕はどうしてもあの人たちの前に頭を下げて心からお禮をいひたいのだ」岸さんはさういつて東京を立つと常磐炭田の各炭坑を訪れ、地下数千尺の坑内に絶叫戦士を見舞つて「ありがたう、たのみますよ」といつて廻つた岸さんの眞心は北海道の鑛山にも、九州の鑛山にもびたりと通じるだらう。そして岸さんの氣持はとりもなほさず一億國民のお禮の心でもあるわけだ

一億一心



大臣を陣頭に

賀屋藏相街に説く

□ 今日では貯蓄は個人のためでなく国家のためにするのだといふことになりました」と賀屋蔵相の話は聞く

◁ 町会長、調組長、国民学校の校長さんたちは真剣に賀屋蔵相の話に聞き入る

戦時下日本のお裏所をあづかる建元総質屋大蔵大臣は東京市内三十五區に開かれる「貯蓄増強懇話会」に「何分よろしく頼みます」と陣頭指揮を振つてゐます。九月二十五日夜、芝區の懇話會會場に出席した賀屋蔵相は「私たちの必勝の信念をこの貯蓄に具現すること、それが前線の將兵に對する感謝でありませう」と述べれば、出席の町会長、調組長や国民学校の校長さんもなほ一層貯蓄報國に邁進することを約束し合ひました。私たちの僅かの貯蓄が榮り、積つて、軍艦や、大砲になることはもうよく知つてゐます。前線の兵隊さんからさへも貯金がどん／＼送られて賀屋蔵相を感激させてゐます。私たちが、さあもう一息がんばつて、目標の二百三十億をはるかに突破させて、新しい軍艦や飛行機をうんと作らうではありませんか



二 賀屋蔵相は町会長、調組長、国民学校の校長さんたちに「貯蓄の増強は必勝の信念を具現すること、それが前線の將兵に對する感謝でありませう」と述べれば、出席の町会長、調組長や国民学校の校長さんもなほ一層貯蓄報國に邁進することを約束し合ひました。私たちの僅かの貯蓄が榮り、積つて、軍艦や、大砲になることはもうよく知つてゐます。前線の兵隊さんからさへも貯金がどん／＼送られて賀屋蔵相を感激させてゐます。私たちが、さあもう一息がんばつて、目標の二百三十億をはるかに突破させて、新しい軍艦や飛行機をうんと作らうではありませんか



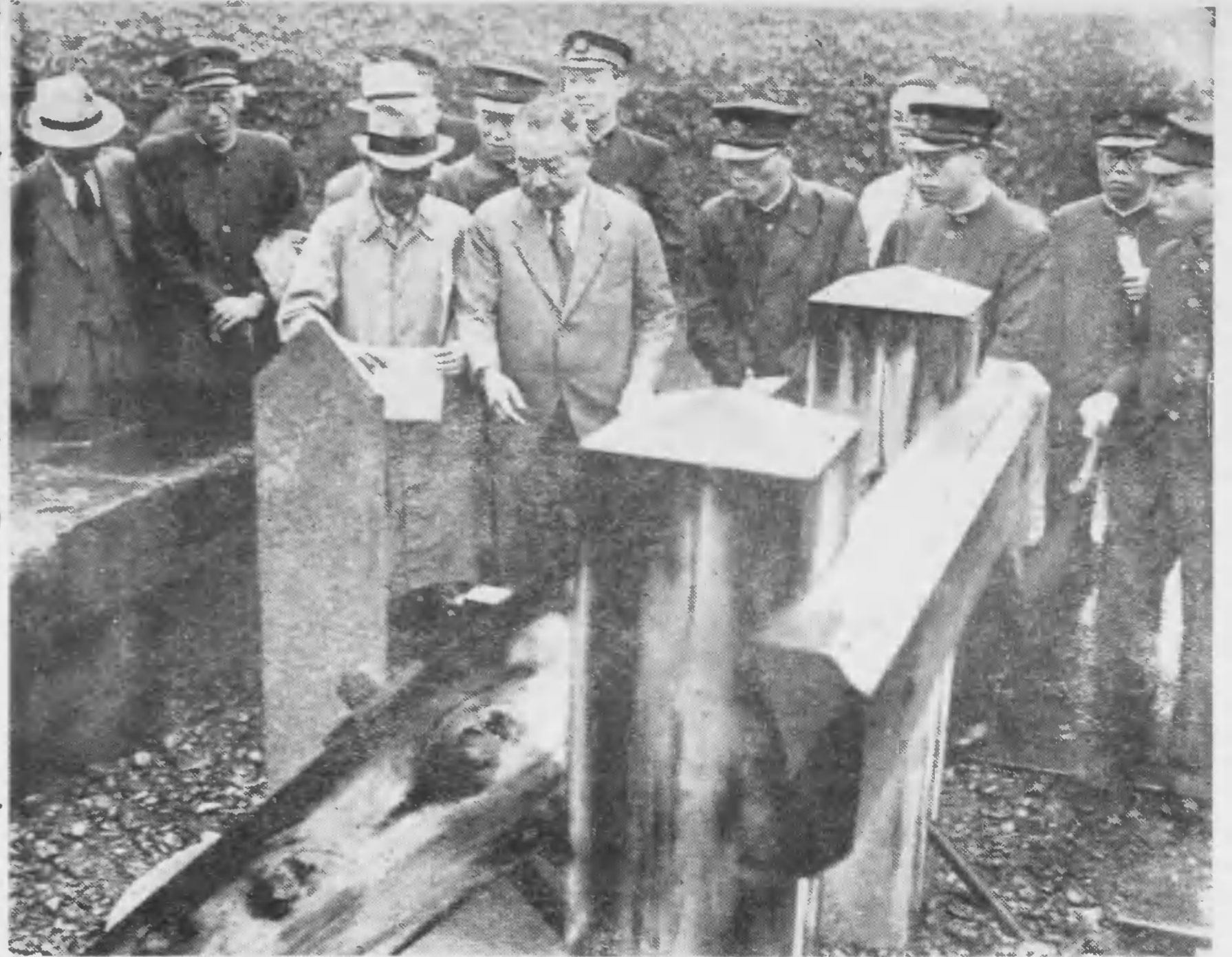
八田鐵相レールに立つ

大臣を陣頭に

⇐ 輸送戦線の第一線に現れた大臣は貨物の山を眼前に
視察する現業員を感服させる

⇨ 議員の説明を聞く間にも大臣の注目は八方に働く。
陣頭に立つ人の鋭い視線が八田鐵相の心をひく。陣
頭をさせるのだ

日本の鐵道建設の總指揮官八田鐵道大臣は、九月十九日朝八時突
如、魚屋さん八百屋さんで雜沓する東京築地の中央市場に現れた。こ
こは帝都七百万市民のお壺所、輸送陣の活動状況も手に取るやうに反
映される。八田さんは早速市場長室に入って、鐵道車輛の配車、入荷
状況等を詳しく聴取した。秋鮎や鮎のうろこにまみれながら約一
時間にわたつて場内を隈なく視察した。かくて兵站線の視察を終へた
八田さんはさらにその足で汐留、芝浦の兩驛を視察し、輸送陣を激賞
して引揚げたが、全國計數万國鐵従業員の陣頭に立つて輻輳する戦時
輸送の戰車を大きく速く廻轉させようとする決心こもる指揮ぶりだ
つた



⇨ 汐留驛の貨物室に陣取つて、自道から貨物運送の報告を受け、いち／＼大
きくうたがう大臣の眉宇にも、輸送陣總指揮官の重大責任に對する決
意がうかがはれる
⇨ 下／＼と搬出される貨物。現場の力強い動きは陣頭に立つ八田の決
心に響きわたる

猛訓練
うける
マニラの警察官



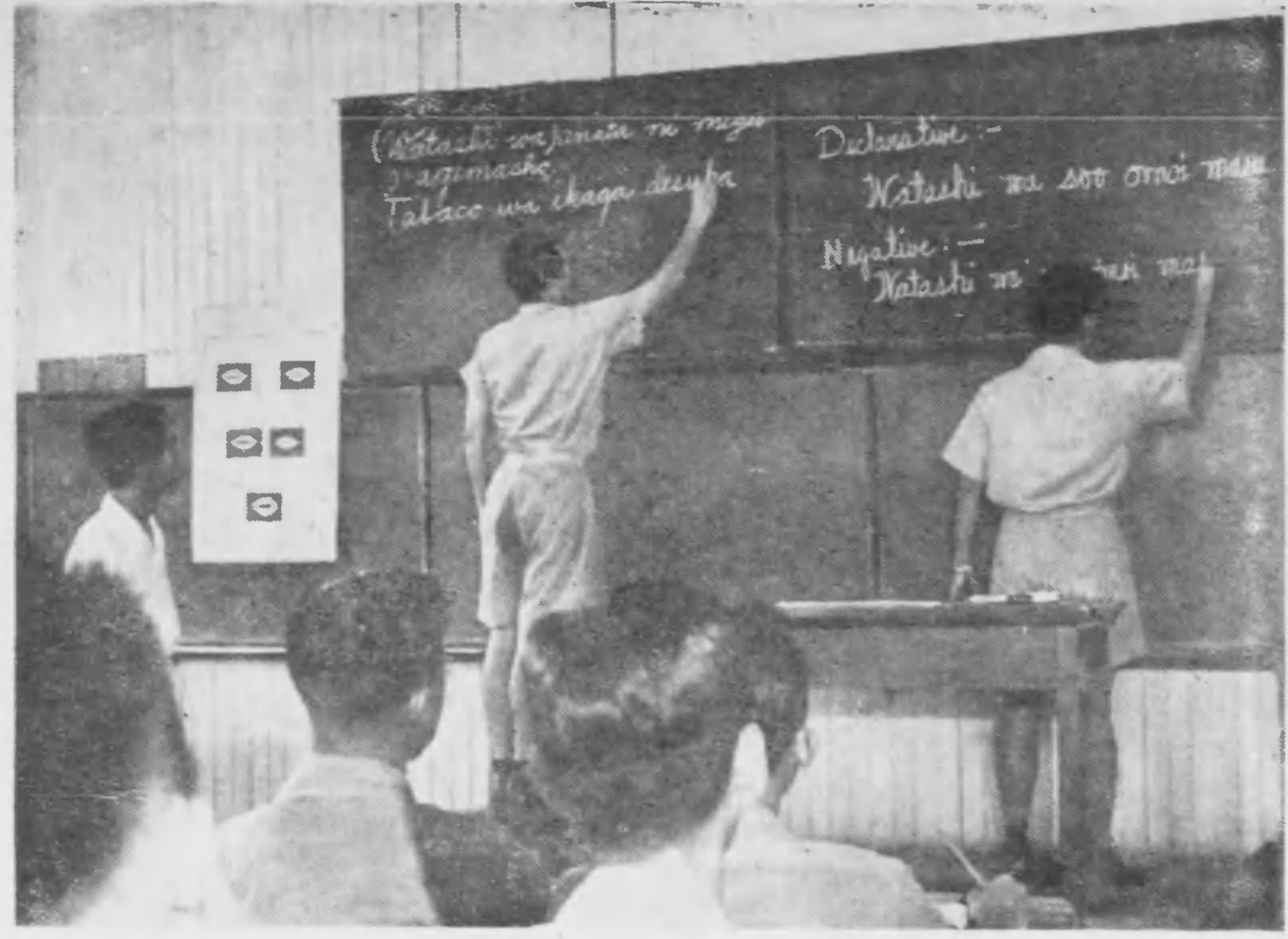
「サントレー」演習に日本語を、日オ軍将校の指導の下に、各官舎に実施されてゐる。



フィリピンの治安第一線に立つべき比島人警察官の訓練所が日本軍の監督指導の下にマニラに開かれてゐる。こゝでは日本軍に積極的に協力して新比島再建に挺身する警察官の中核分子や、地方警察官の指導者を養成するのが目的であるが、軍の指導の重点は精神陶冶にあるといへる。といふのは、米英的な考へ方が常識であつた彼等の以前の生活から、一足とびに東洋人としての自覚ある警察官に生れかゝることには、相當の精神陶冶が必要だからである。彼等はこゝで特訓の、協同の、忍耐の、責任の何たるかを身をもつて錬成する一方、

警官としての特殊技能を、心身ともに新たになつて民衆保護の重責をよたすわけである。

「サントレー」演習に日本語を、日オ軍将校の指導の下に、各官舎に実施されてゐる。





家族が畑に出張つたまとは、おばあさんが種を相手に切りしめるの作業にあたる



エッロンに包んだ煙草の箱は、はかどないはくみ、第一杯も上げた蒸いもに塩を添へたお菓子がなれり。其の前のやうには、ふんたんに手に入り難くなつた。これはこの甘藷が時局下、買正大きな材料を果してゐるからで、先づ甘藷を原料として、現在なくてはならないタバコ原料

甘藷の栽培は、昔から行はれて来た。大正に甘藷田がブタノイと行はれた。甘藷の栽培は、昔から行はれて来た。大正に甘藷田がブタノイと行はれた。甘藷の栽培は、昔から行はれて来た。大正に甘藷田がブタノイと行はれた。

學校卒業後、學理應用の農作栽培の研究に専心して来た篤農家ですが、同地方の名産になつてゐる甘藷の栽培には特に意を注ぎ、この素晴らしい増産法を確立しました。三年前、千田村農會接手に就任して以來同氏は、これまでのやうに反當り千斤か千五百斤程度の収入では時局下申譯ないと、同村の篤農青年に呼びかけ、一万斤を目標にその栽培法を指導し、青年たちもまた同氏の熱心な指導に奮起し、甘藷増産一萬斤期成會を組織するなどして、つひにこの朗かな増産風景を現出したのです。

黒川式栽培法の眼目を大ざっぱにあげてみますと、(一)冬期の鋤返をして土地を軟かにし、排水をよくし、空氣の侵入をよくするやう準備しておくこと、(二)温床苗床(オンドル式温床ならばなほよい)を造り、ガラスまた油障子で覆ひをして強い苗の育成に努めること、(三)苗の良否により坪當り挿苗本数を定めること、(四)施肥期を考慮すること、(五)培土をしないこと(初めに畦を高く盛り上げておく)、(六)返返しに注意すること、(七)生育期間、收穫時期に對する留意(八)病虫害の防除に努めること、さらに貯蔵法の改善、干甘藷を造る時期をあやまらないやうにすることなどです。

撮影 梅本忠男



甘藷は薄く切つて、十分乾燥し、無水アルコールの原料として供出される



薩摩芋
大当り

熊本縣千田村



ドイツ協会クラブに集った日英の慰問員共作部
 傷病の身を養ふ日本の兵隊さんたちにつれづれの慰みをと、在京ドイツ婦人たちが心をこめた美しい贈物、白衣の勇士慰問「ドイツ文化風俗写真集」三百組が、軍人援護強化運動、日獨伊三國同盟二周年を間近に控へた九月二十五日、陸軍省へ届けられました
 これは先頃から約一ヶ月間、東京市豊島区平河町のドイツ協会クラブにオットー大使夫人をはじめ在京ナチス婦人職員四十餘名が集つて酷暑をよそに作り上げた労作で、美しい写真十枚を一組にまとめ、その一組毎に優しい慰問の手紙を添へたものです
 この日、陸軍省に木村次官を訪れたナチス婦人東京支部長エター夫人はめでたく奇蹟を終へたあと、種々女性の意氣と優しさを次のやうに語りました
 『日本の戦ひはまたドイツの戦ひでもありません。からして私どもが傷つた日本の兵隊さんたちをお慰めすることは同時に祖國ドイツへの奉仕でもあると信じます。あの貧しい贈物が少しでも白衣の勇士の方々をお慰めできればこんな喜びはありません』
 なほこの写真の製作には日獨婦人會側からも合議を伴つた東條総理夫人、荒木光太郎博士夫人らも参加し、それに女子科學堂の女生徒六名も特に懸投を買つて出て、大戦下にならぬ日獨親善風景を繰り展げたものでした
 木村陸軍次官に渡される五つの小冊、赤いリボンが日獨の友情と誓ひを固く結んでゐる

同協獨口モにニニ

の人婦ツイド京在
 に物贈たのこを心



水原ならぬベンのもと、美しく種々女性の優しさをこめた慰問の手紙も綴られる

写真に見入る東條内閣総理大臣夫人と説明するエター、ナチス婦人團支部長（中央）左端はオットー大使夫人、右端は荒木光太郎博士夫人

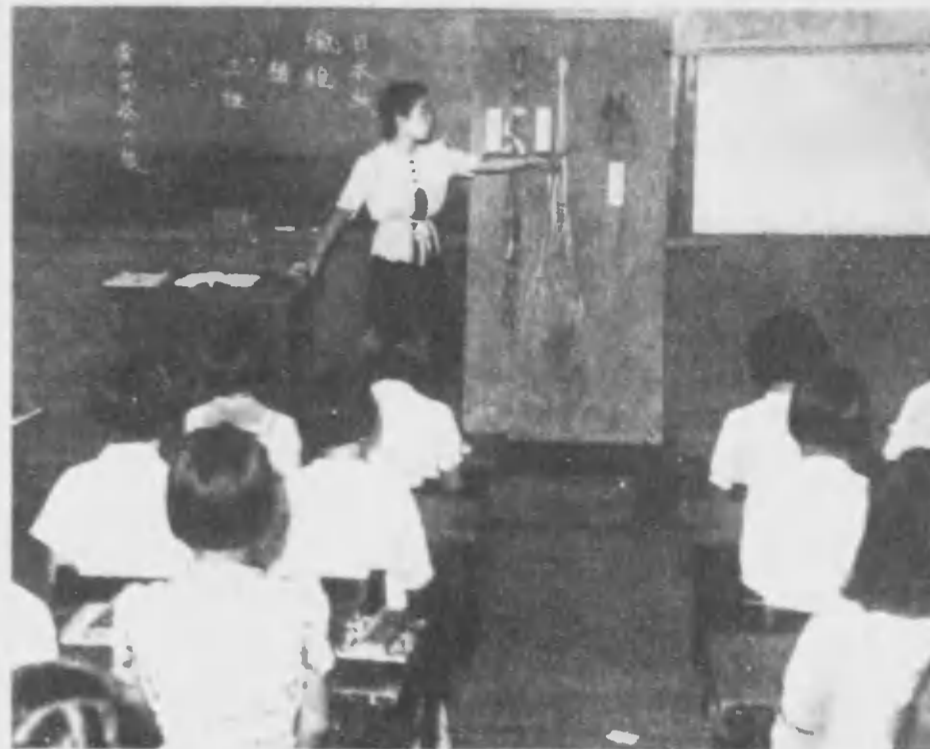
紙を漉く國民學校

大阪府布施市長榮國民學校

撮影 中藤 敦



釜で煮つめた原料は簡単な米つききのやうなもので叩いて繊維を分離させます。これはお餅をつくときと同じやうに臼の中で原料を混ぜておろすところから



一枚の紙でもそれが出来るまでには大変な手数がかゝるのです。まづ紙の種類によつてその原料も違つてきます



紙をすくには紙屑を大釜に入れてこれに苛性ソーダを加へ、一時間ほどドロ／＼になるまで煮つめます。煮つまるまで何回となくかき廻します



かうして出来た原料はこゝで水箱のなかへ入れ糊とパルプを混ぜていよいよ紙すきにかゝります。これは中々むづかしい紙が一箇所に寄つて高くなつたりして私たちは幾度も失敗しました

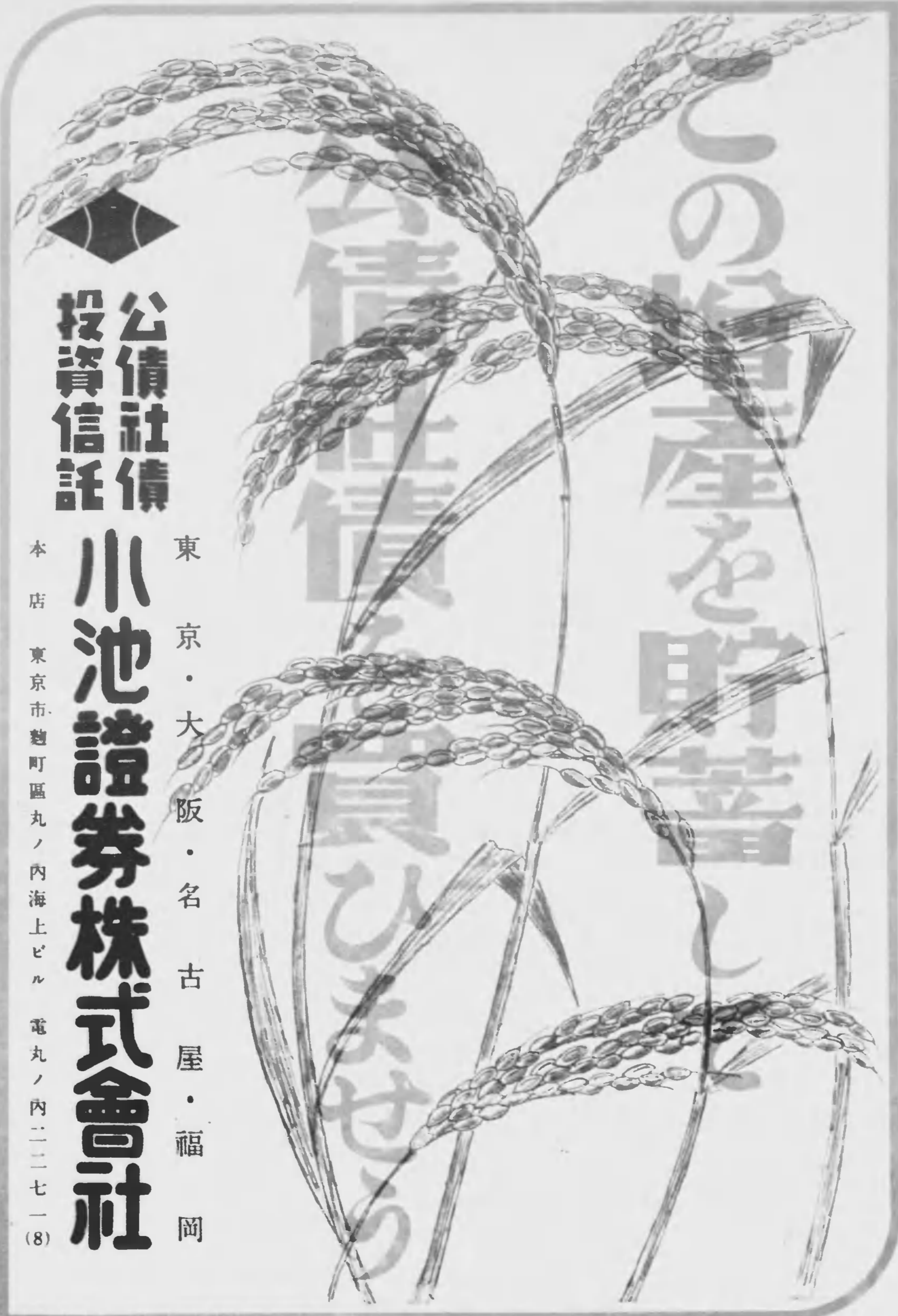


紙がすくはますと重なり、中々むづかしい紙が出来ます。これも紙がよつたり、中々むづかしい紙が出来ます



紙は文化の母であり思想の弾丸です。しかしこの大切な紙も私たちがこれまで何かといへば価値の少ないもの代名詞のやうに『何だ紙の一枚ぐらゐ』と、とかく粗末に取扱ひがちでした。これは大戦下物資愛護の精神にもとるばかりでなく、高い文化をもつた國民の大きな恥辱であるといはなければなりません。大阪府布施市長榮國民學校ではこの大切な紙への認識を通して物を愛する心、科學する心を養ふため、先頃から上級の女生徒たちに『紙づくり』をやらせて大きな成果を収めてゐます。一たん捨てた反古紙をこゝではどういふ風にもう一度新しい紙として役立ててゐるか、今日はこの紙を作る國民學校をみんなで見学いたします。説明役は高等科二年の二階堂節子さんにお願ひしました。

かうして出来上つた再生の紙は美しい紙を編んで便箋や封筒やノートを作り、皆々で大切に使つてゐます。むろ、お習字に使う紙も私たちが作つたものです



公債社債
投資信託

小池證券株式會社

東京・大阪・名古屋・福岡

本店 東京市麴町區丸ノ内海上ビル 電丸ノ内二二七一(8)

東京新聞 昭和十七年十月十七日 第三千五百一十一號

内閣印刷局印刷發行

(刊行紙張-A4形規定幅はさき人の請求)